



2017
年度 3
えんだより

社会福祉法人 恵泉福祉会
光の子保育園
園長 長島 博樹

主 題 希 望

月のわがい

- これからもイエスさまと共に歩みたいと願う。
- 友だちと信頼し合い、楽しさを共感し喜ぶ。
- お互いの成長を喜び、新しい生活に期待を持つ。

おことば

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい

(テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章 16～18節)

行 事 予 定

3 月

- 01日(木) 新入園説明会 12:30～ 作品展 10:00 まで
- 02日(金) お茶会
- 06日(火) 卒園お祝い会
- 10日(土) 卒園式
- 13日(火) 未満児遠足(※お知らせを参照ください。)
- 15日(木) 卒組式
- 26日～30日 新年度準備(※お知らせを参照ください。)
- 30日(金) ランチデー



4 月

新年度の行事予定につきましては、後援会総会において説明・承認後に確定いたしますが、概ねの予定のみお知らせいたします。

- 05日(木) 入園式・時間外説明会 11:00～ 17:00～
- 06日(金) チューリップ祭り・ランチデー
- 07日(土) 時間外説明会 8:30～
- 14日(土) イースター・親子遠足

光の子

卒園・卒組おめでとうございます。

先月、卒園児のお母様がノートに次のようなメッセージを寄せてくださいました。

「先日、小学校で2分の一成人式を行なってくれました。その中でHからパパ・ママへの“今まで育ててくれたことへの感謝の手紙”がありました。その手紙の一文に“光の子保育園に入れてくれてありがとう♡”の文字も！！ Hは光の子で生活したこと誇りに思っている表れかなと思います。改めて、光の子に入れて良かったなあ～。光の子を選んで正解だったと感じました。Hにかわって改めて感謝申しあげます。子ども達の大事な幼少期を共に過ごしていただき、ありがとうございます。」

2分の一成人式は、10歳になると行う行事となっているようです。もう卒園して4年もたちますが、光の子のことを忘れないでいてくれる女の子の心に、育ちの太い根を見ることが出来たように思い感動しました。きっと、大人になるにつれ、記憶の中では消えてしまう思い出も、考え方や選択肢の広がり、人を受け入れる柔軟な心の中、人と信じあう素直さの中、困難に向かう逞しい精神の中に、しっかりと光の子で育んだ根が息づいてゆくことを、私達は願って保育していますが、その思いをこの女の子はしっかりと今でも温めてくれているのでしょう。

世界で最も素晴らしく、最も美しいものは、
目で見たり 手で触れたりすることはできません。
それは、心で感じなければならぬのです。

— ヘレンケラー —

ヘレンケラーは、心で感じる幅の広さがどれだけ豊かであるかという事が、人が美しく素晴らしく生活できるかという事に繋がる鍵となることを教えられますが、この幅を広げることが出来る感性の育みは、この幼児期だという事を上記のメッセージは示してくださっているように思います。

無印良品という会社の「暮らしの中心」という雑誌に「光があるから色が見える」というレポートは、東京大学准教授の鳥井寿夫さん(理学博士)に色について尋ねた文章です。

「なぜ色が見えるかという、それはこの世に光があるからなんですね。光源から出た光が物にぶつかると反射や乱反射をします。そこから帰って来た光が私達の目に入り、網膜の錐体細胞を刺激して電気信号に変え、その信号が脳に送られて私達は色を認識しているのです。光が無ければそもそも色は見えません。ここで不思議なのは私達が見ている太陽に光です。日の光の白っぽく見えますよね。白という純白、混じりけの無いイメージですが、実は全くの逆ですべての色が混ざり合ったものが白い光になるのです。」

このように光の白は何もない色ではなく、全てが混ざり合っている色なのだという事に驚きました。例えば「みかん」という物質は青い光を吸収します。白い太光の内、青い光を吸収して残りの混色が黄色に見えるというのです。このような色の原理を「減法混合」と呼ぶのだそうです。

光の子という名前は、聖書の中のメッセージから付けられました。

あなたがたは、以前は闇であったが、今は主にあって光となっている。
光の子らしく歩きなさい。光はあらゆる善意と正義を真実との実を結ばせるものである
(エペソの信徒への手紙 5章8~9節)

子ども達は生まれてこの世の光に照らされた時、太陽と同じ混合色の白い光が放たれているのかもしれませんが、良いも悪いも、好きも嫌いも可能性という光につつまれています。しかし成長を通して快・不快を知り、様々な感覚・感情を知り、家族の愛、友だちや係る大人の愛を知り、様々な光を吸収し反射する中で淘汰され自分らしい光の色を周囲に解き放ち、他の人に写るそれぞれの光の色が個性となって受け入れられていくのではないのでしょうか。大人の「子どもは純粋で素直でいい子でいて」という見方は本来の持つ混合色の白を否定し、可能性を否定し、延いては個性を否定しかねない問題を秘めているように感じます。子どもだって喧嘩もすれば優しい時もある。いたずらもすれば慎重な時もある。怪我する時もあればぐずる時もある。それら混合した光の中、そこからどんな光を生み出すかが重要だと思うのです。

聖書のメッセージ「主にあって光となっている」とは、神さまの光によって私達の様々な異なる色を赦していただいているという事、そして善意と正義の真実の実を結ぶよう闇に隠れず、恐れず光の中を歩きだしなさいという力強いメッセージなのです。

これからも子どもが成長するその時々で心配や課題は無くなりませんが、どんな時でも神さまの光に照らされ、歩きだした光の子達が様々な経験を吸収し、自分の色を信じて力強く輝けるよう、これからも祈り続けてゆきたいと思えます。

2017年度も様々な場面で、保護者の皆様のお支えとご理解・ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

2017年度の卒園プログラムのテーマは「パン」

今年、紫さんからの卒園記念品としてホームベーカリーを頂き、おやつの手作りチーズパン、焼きそばパンから、クッキング、ピザづくり等、様々な場面で活躍し、子供たちを喜ばせてくれました。このプログラムには素敵なものを贈ってくださったムラサキさんへの感謝の気持ちがこもっています。

また、パンはキリスト教にとって重要な意味を持っています。春になるとイースターがありますが、イースターの三日前、イエス様が十字架にかけられます。そして、その前の夜にイエス様が弟子たちにご自分の身体として分けられたのが”パン”なのです。キリスト教では月一度、イエス様のことを覚えて、また、神様にある一つの家族としてパンをいただきます。これからの子どもたちの歩みも、イエス様と一緒にあるように、また、光の子にある一つの家族として歩んで行けるよう、プログラムにパンを入れさせていただきました。



光の子ゲレンデで
すべったよ!



ひつじバザーにて



今年度最後の「森の日」
たくさん遊んで、
ドラム缶風呂にも入ったよ。



お別れ遠足

品川の水族館に行ったよ
イルカのショーも楽しんだよ



先生たちの大縄跳び
子ども達に負けないぞ!
結果は.....?

